＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第44回　ウマノスズクサ

ウマノスズクサ（ウマノスズクサ科）の仲間です。ウマノスズクサの仲間は根を生薬として用いています。日本ではウマノスズクサ属生薬は用いられず、ウスバサイシンを細辛として麻黄附子細辛湯等の漢方薬に配合して用いています。

ウマノスズクサ属の地上部にはアリストロキア酸と呼ばれる成分を含み、それを体に取り込むと腎臓に蓄積しアリストロキア酸腎炎、腎不全、腎がん等を引き起こします。また、小麦等にウマノスズクサ属植物の種子等が紛れ込み、それを食べて腎炎を起こすことがあり大きな問題となっています。

ベルギーでやせ薬として用いた中医薬で腎炎を起こし、Chinese herb nephropathyと呼ばれています。日本でもやせ薬として中国製の防己黄耆湯が輸入され腎炎を引き起こしたことがあります。これは中国で広防已（ウマノスズクサ属植物）を防已として用いていたため、薬害事件となりました。

本画の作者年代とも不詳です。